

良きパートナーシップを

教育学部長 那須俊夫

去る一月、米国のブッシュ大統領が来日した際、「グローバルパートナーシップ」という言葉がマスコミを賑わした。地球規模での協調関係とても直訳するのであるが、協調の中身を巡ってマスコミで話題となったのである。

さて、現代は流動化社会といわれている。いろいろな情報が氾濫し、価値観が多様化し、しかも、社会の変化は人類が嘗て経験したこともない猛烈な速さで進んでいる時代である。このような社会に生き、これから活躍しようとする皆さんはどんなことを心掛けていなければならないのでしょうか？

このような社会では、アイデンティティを確立し、自分が何を目指していくのかをはっきり見通す能力が大切なのは言うまでもない。しかし、その考えにくら独創性・先見性があっても周囲の協力と協調がないと成功はおぼつかない。自分の考えを整理し、周囲の人達に理解してもらい、素直に受け入れられるためには、平素から周囲との良きパートナーシップを確立しておくことが何よりも大切なのである。例えば、それが如何にローカルなパートナーシップだとしても、その上で、自分と異なる価値観や、異なる知識・能力を持った人を理解し活かす能力が指導者には求められているのである。

平成三年度の卒業生・修了生の皆さんが、それぞれに良きパートナーシップを持ち、存分に活躍されることを祈る次第である。

授業で勝負を

学校教育学部長 五十嵐 二郎

卒業生、修了生の皆さん、卒業ならびに修了誠におめでとう。国内的にも国際的にも多くの問題をかかえている、きびしい教育界で活躍しようとする皆さんに「授業で勝負する」教師に成長していただきたいの一言をお祝いの言葉として贈ることにする。

教育という仕事は時間を忘れてするところに意義があると言われる。気がついてみると夜の七時であったり九時であったりすることがよくある。皆さんが教育実習でお世話になった附属学校の先生方などは、そのような雰囲気の中で仕事をされているが、皆さんにはどのように映ったであろうか。教師のタイプにもいろいろあるが、私は、とにかく、皆さんに授業で勝負する教師に、そして児童生徒の自己活動を刺激し、創造性を引き出せるような教師になっていただきたいと衷心より願っているものである。

本来、日常的に相互作用的に行われている教育活動や教育作用の中核をなしている授業を直接的に支えているのが、教師であり、学習者であり、教材としての文化財であることは言うまでもない。授業で勝負する教師は何よりも児童生徒一人ひとりを人間として自立させることを目指さねばならないし、教育の原点はまさにこの点にあると言える。

卒業生、修了生の皆さんには、各自の専門分野での研鑽を積み、実力を養いながら絶えず教育の原点にかえる実践授業の歩みを続けていただきたい。御健勝と御健闘を祈る。